記　入　日　2013年　　月　　日

1．概　要

実践団体名	みどりが丘小学校　学校支援委員会　環境整備部		
連絡先	鈴木　介人　０９０－３００３－９６７７		
プランタイトル	みどりが丘小学校避難キャンプ！		
プランの対象者※1	２，３，８，９，１０	対象とする災害種別※2	1

※1　別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※2　別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

東日本大震災と同じような状況があったと想定して、家庭において災害時の初動対応を子供が行い、子供の対応力を向上させるとともに、その取り組み状況を確かめる。
避難については、一時避難所に集合させ、知らない人同士の班で、ウォークラリー形式で学びながら、危機回避術を知り避難する。避難先である学校では、大人は基本的に見守りで、子供自身が実践して、避難所として対応及び問題を解決しながら、取り組み状況を確かめ、経験を積むことで、災害時の克服ができるようにしていく。

【プランの概要】

準備段階として、アンケート実施（３．１１後の八千代市では初めての試み）をして防災について、啓蒙と参加を促すように行った。

また、防災キャンプを準備にあたり、関係個所（市・企業・自治会）などの調整にかなりの時間を費やしました。避難キャンプ当日は、第一部の防災ウォークラリーを駅前において行い、各種防災訓練（バケツリレー・消火器・起震車・応急処置）をテーマとして実施しました。学校に避難する第二部が、一泊の宿泊キャンプでした。学校では、防災倉庫探検、野外調理、キャンドル作成、みんなで行ったディスカッションなどがありました。このディスカッションでの成果や、作ったキャンドルのキャンダルタイムなどか印象深く来年度の実施となりました。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

新設三年目の学校でここまでできたのは、良かったと思っています。保護者、学校もまだ成長途上で脆弱でしたが、この経験を乗り越えたことで、強くなったと思います。また、地域などから協力をいただくことで、地域と学校の関係が深くなることは間違いがありません。

おそらく、このような体験型の防災訓練は定期ごとに実施することで、学校の協力を得たり、風通しも良くなると思います。

２．プランの年間活動記録（２０１２年）

	プランの立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	関係個所 参加要請	プラン参加募集・学校の意見交換	千葉県・八千代市・企業への協力要請 学校では、管理職が異動となる最初から打ち合わせをしなしとなった。 保護者会での発表
5 月	意見調整・参加確認	協力企業との意見調整	企業からの実施について意見要望、可能実施の有無、防災アンケート作成（３．１１の対応、災害対策）
6 月	防災会議①	プラン概略について	防災アンケート実施 キャンプ説明・スケジュール表作成
7 月	防災会議②	実施に向けて	防災アンケート集計（回収率７割）・結果報告（防災に備えては脆弱） キャンプにおける担当決定
8 月	避難キャンプ実施	実施 防災マップ作成に向けて情報収集	４．５日実施、一泊でのお泊りが初めてでした。キャンプのビデオ動画編集（展示物で公開）
9 月	キャンプ総括 中間発表に向けて準備	アンケート実施	保護者アンケート・子どもたちから感想取得、中間発表用のプレゼン作成 発表にむけて練習
10 月	キャンプの課題 中間発表		アンケートなどをまとめる。 中間発表
11 月	防災マップ作成 校内安全マップ作成	情報収集中心	防災ｅマップの情報収集（３．１１での情報、四年生が校内の安全マップ作成及び低学年向けに発表をする。
12 月	防災マップ作成	マップ提出	防災ｅマップ作成し、提出する。 ３．１１での被害、防災設備、交通事故など（閲覧率向上を目的）
1 月	発表資料作成	印刷物・発表練習	資料整理、事務局提出
2 月	防災教育チャレンジプラン発表	発表	発表練習、展示
3 月	来年度に向けて検討	プラン計画	スタッフ募集

３．実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：　１　】※3

タイトル	みどりが丘小学校避難キャンプ！
実施月日（曜日）	８月４日
実施場所	東葉高速鉄道八千代緑が丘駅前広場　から、学校までの道路 第一部　ウォークラリー
担当者または講師	担当者・講師等の区分：　担当者 氏　　名：鈴木　介人 所属・役職等：学校支援委員会　環境整備部　代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	１２時３０分より１５時まで
プログラムのカテゴリ、形式※4	防災訓練・防災設備の発見
活動目的※5	防災訓練を家族や知らない人同士のチームワークで展開していく。
達成目標	日常触れたことがない防災機器を使用して、なれること。及び駅周辺にある防災設備を探していくことで、もしもに備えていく。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	地震があったとの想定が、まず自宅で、「指示書」開封して、指示に従う。内容は、ブレーカーを落としたり、置手紙の指示が書いてある。→受付をして、知らない人同士でチームとなる。→協力してバケツリレートライアル→水消火器訓練→起震車体験→応急処置訓練（レジ袋など）→ＡＥＤ公衆電話発見ゲーム→情報取得ゲーム→消火栓発見ゲーム
準備、使用したもの **・人材** **・道具、材料等**	受付表・筆記用具・バケツ及び標的バケツ・水消火器及び標的・タイム計・レジ袋及びネクタイなど日常の物
参加人数	１００名（体験者） スタッフ　２０名（消防・自治会・市・保護者会）
経費の総額･内訳概要	消耗品　５０００円程度
成果と課題	【成果】 防災訓練にふれたことが無い人にとっては、楽しくできる防災訓練で、更にしたくなるように企画した。 【課題】 初歩段階なので、参加者次第では更に進化させることが必要
成果物	ＡＥＤ訓練を実施したいと子どもたちからの声が聞こえた。

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　2　】※3

タイトル	防災について
実施月日（曜日）	８月４日
実施場所	八千代市立みどりが丘小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏　　名：深澤自主防災隊長 所属・役職等：隊長
所要時間または「コマ数×単位時間」	１時間×１コマ
プログラムの　カテゴリ、形式※4	防災について何を知っているかな？
活動目的※5	防災について何があるかを答えてもらう。
達成目標	身近にある危険などを知ってもらう。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	自主防災隊（自治会組織）の人から、八千代市にどのような災害があったかを話をしながら、日常の子どもたちのまわりに何が起こる心配があるか、記入させながら考えさせていくもの。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	問題提起者、司会進行役、 ホワイトボード、マジック、模造紙
参加人数	９０名
経費の総額･内訳概要	２０００円程度
成果と課題	【成果】 子どもたちや、大人が地域であった災害についてもう一回考える機会を出す事で、備えにつなげていく。 【課題】 低学年には難しいかもしれない。
成果物	身近にある災害について

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　3　】※3

タイトル	避難所運営ディスカッション
実施月日（曜日）	８月４日
実施場所	八千代市立みどりが丘小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏　　名：鈴木　介人 所属・役職等：代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	２コマ×２０分
プログラムのカテゴリ、形式※4	問題を提起して、各グループでディスカッションをしていく、子どもたちが中心に話を進めていくことに注意した。
活動目的※5	ものも避難所に避難した時にどうしたらいいのか？を問いかけて、子どもたちのがどう解決していくのかを目的とした
達成目標	自分達以外の人達をどのように助けて行くのかを考えていく
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	司会から、問題的をする。「避難所に食料が１日分しかない場合」などを提起して、グループで話をさせる。大人が決めるのでは、子どもから答えをださせることで、色々な解答から、異なる考え方などを聞きながら、お互いを尊重しあいながら進めて行く。また、その過程で人に対する協調性などを作りだす。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	模造紙・筆記用具
参加人数	９０名
経費の総額･内訳概要	２０００円
成果と課題	【成果】 グループでの対話は、子どもたちの意見が多くでてきた。色々な解答もがでてきた。避難弱者に対しても考えて提起をすることで、自分達での解決方法を見つけ出すきっかけとなった。 【課題】 課題解決から、理想的な解答案について進める必要もある。
成果物	もしも、避難したときには何が必要か？から、コミュニケーション能力、発想力を作りだした。

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

４．苦労した点・工夫した点

プランの立案と調整で苦労した点工夫した点	企画立案をした際には、メンバーが私１人だったことです。昨年の発表会の際は、教頭も同席して、二人で行う予定でしたが、異動になり、赴任された、校長・教頭と行うことになりました。まず、お互いの意思確認から、協力を再度お願いする事態となった。 保護者会側から、無理な企画を行うべきでないという意見（新設校のため）自治会側からは、１人からのスタートでできるのか？との厳しい意見も頂きました。 そのため、当初プランよりは、単純にしていくことで、ウォークラリーなどの工程数も減らす事で、スタッフ人数を減少させたり、タイム競技を廃止することで、怪我を発生する恐れを減らしました。 自主防災担当者（自治会）とも足を運び、協力をお願いするとともに、地域の企業にも足を運び、協力を取りつけることができました。 今回の企画に際しして、情報収集を特に重視して、先事例をとにかく収集することで、マニュアル化すことに注意をしました。このマニュアルもできる範囲で文章化をしましたが、まだまだこれから成長させる必要があると思っています。
準備活動で苦労した点工夫した点	メンバーが１人ということで、１から 10 までしなくてはならなかったこと、関係先を周るだけで一日かかるという時間と労力がありました。６月以降になると、学校で会議を定期的に行うこととなったため、ある程度は解放されました。 関係企画との意見調整では、ある団体からは、「子どもの遊び的要素が高い」ので、協力できないとの厳しい意見がありました。私は、小学生に専門的すぎると、防災教育の入り口にも入ってくれないのではの意見だったため、意見は残念ながら調整できませんでした。 ７月になりますと、準備段階では、お手伝いをしますとの声が保護者からあがってきて、夕飯作りなどは任せることとしました。そのため、ある程度のプログラムは、担当を決めて任せる方式に切り替えて、学校側には、ディスカッションを進めるなかでの進行役。自主防災隊には、身近に防災などをお願いをしました。特に、自主防災隊との企画では、顔を見て、「どんなのができるのか？」「子どもたちが考えるストーリー」ということで、アイディアを出していただきました。そのため、知らない同士であっても、何回も会って、意思疎通をすることで、企画の内容も決まっていくものだと感じました。
実践に当たって苦労した点工夫した点	当日は、大まなことは自分で進める形をとりました。（自主防災の副隊長からは、あんたは大将なんだからあと、ドーンと構えてればいいんだと言葉を頂きましたが・・・）第一部のウォークラリーでは、受付でのトラブル（グループ編成について）があったりしました。 避難所での生活については、阪神の事例を何度も読み返して頭の中に記憶をして、実際の避難所での経験をマイクで参加者に言うことで、実際はもっと悲惨であったり、食べ物が食べられないという事態なんだということを、震災時の情報が耳に入っていくように心掛けました。 特に学校側での事情なども配慮して、避難所ではみんなが協力するように、言っていくようにしました。このようなことがより、実戦に近づけるではと思います。 変な話ですが、あまり上手く行って欲しいない（問題があってみんなで解決するような問題が出て欲しかった）、いわゆる避難所としてハプニングがあることを期待していましたが、私に発生したのが、夕食がスタッフ分が配膳できなかったことにつきます。これは、次回子どもたちが解決してくれると思っています。

５．他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・同窓会組織	八千代市市立みどりが丘小学校 防災マップ作成時 八千代市高津地区（七校ブロック） 近隣小学校・中学校区からの情報取得	教職員派遣・備品、場所提供
保護者・ＰＴＡの組織	みどりが丘小学校保護者会	参加受付、進行補助、会議出席
地域組織	緑が丘自治会（自主防災隊）	人員派遣 防災について質問コーナー
国・地方公共団体・公共施設	八千代市・千葉県（起震車）・気象庁	八千代市、人員派遣、総合防災課・消防 駅前広場 千葉県（起震車貸出） 気象庁（異常気象について）
企業・産業関連の組合等	ちばコープ サイサン 石井食品	ちばコープ（非常食提供・人員派遣） サイサン（ガス・ガス発電機・人員派遣） 石井食品（非常食提供・人員派遣）
ボランティア団体・ＮＰＯ法人・ＮＧＯ等		
職業、職能団体・学術組織、学会等	千葉県消防設備協会 八千代市防災設備協会	

６．成果と課題（実践したプラン全般について）

成果として得たこと	キャンプを実施したことによる成果としては、 ① 参加者には、防災について備えについて警鐘を感じさせていた。 ② 防災の備えについては、行政側だけでなく、自分たちも用意をする必要があることを感じている。 ③ 避難所としては、みんなで協力して運営が必要ではないかと感じていた。（初回の実施のため、見ているだけのケースが多かった）一部では率先して手伝いを始めていた。 ④ 子どもたちには、体験型を取り入れたことで、楽しかっとの意見が多くみられた。 ⑤ ディスカッションでは、予想していたい以上の効果をもたらしてくれた、何が必要であるのか？どのうよな関係が子どもたちを伸ばしていのかが理解できた。 ⑥ キャンプを通して、得られた情報は、防災マップにおとすことで、後日利用できるようにした。
全体の反省・感想・課題	実際の運営スタッフが参加人数にあった、人数が確保できなかった。実施に協力するという意思疎通があまりできていないのが実情だった。今回の経験から次の参加をどう増やしていくかがカギになると思う。 次回行う場合は、今回の実施した感想からは、良かったニーズが多いので、参加が増加するおそれがあるので、それにともなった運用が必要。 キャンプというと同じ企画をすることは、内容の陳腐化を招き、ひいては参加人数の低下をまねかねないので、次に行う場合、内容を切り替えていく必要が感じられた。 得られた情報、実施した経験を次にどう生かしていくのかを構築する必要があるし、次につなげる、地域につなげる、他にもつなげていくには、ある程度のＰＲや、広報も必要であった。しかし、これも学校長からすると、学校内で行うか、学校外で行うのかなど調整（責任問題など）が必要となり、苦労した。
今後の継続予定	来年度、サバイバルキャンプとして実施する。 子どもの中心の企画として立ち上げていく、失敗してもいいから、子どもたちが中心として運営が可能か？体験型を通して、「もしも？」に備えていく。大人が、運営の中心であると、避難所としてルールが複雑すぎて、運営が困難になるように感じがする（地域的に新興住宅地域なので主張が多い）ので、このようなプランで行ってみる。子どもたちが決めたものが純粋で、シンプルのように感じているためです。

７．自由記述欄　※6

※6　自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守でお願いします。

防災教育チャレンジプランとしての企画は、私はおおいに、活用をさせて頂きました。3.11の経験がなければ、私はこの企画案自体も知らなかったし、また、実施することわ、無かったことは間違いがありません。その意味からすると、あの震災前までは、災害に備える心が無かったことになると思います。（実際は、経営している会社では発電機など用意してあって、停電に活躍をしたのですが・・・）

同様に、学校側からすると、学校の教育の延長としてとらえる、学校長もいれば、あまり深く考えない場合もあるかと思います。この一連の流れをみていると、学校側の対応を見ていると、私の個人プランが独創？独走しているのもあるかと思いましたが、一泊の宿泊を経験した後における子どもたちの成長と、最後にみんなが自然と拍手がおきるに及んで、「やってよかった」と学校も保護者も子どもたちも感じてくれたのが嬉しかったです。

とにかく、１人の発案から良くやったとは思っていますが、色々な人と会うことで、防災について話を何度も何度もすることで、相手からは、「これをやってみたい」「こうしてはどうかと」との意見か出てくれたことは、喜ぶべきものでした。

学校長からは、通常は学年単位だけど、1～6 年生の縦割りで、集会をしてみたいとの意見から、大人～子どもたちを含めた、グループディスカッションにつなげたことが、副産物（協調性を育む）をもたらしてくれました。（これが次に繋ぐ原動力かも）

八千代市の防災担当からは、炊飯袋での炊飯のアイディアから、防災設備協会からの支援などのとりつけなどに奔走をして頂きました。また、消防から出向中の大澤さんには色々と助けていただきました。（パワーをもらった気がします。鈴木さんならしょうがないな～という感じでした。）また、土壇場で、八千代市から広報の取材も入って、子どもたちの避難キャンプの掲載写真が載ったことで、学校内で「あ～、避難キャンプに行けばよかった」との声が多数でたことも、次の実施に向けての良いステップなったと思います。

（自由記述：１／３）

このような結果からすると、何も無い状態で、行ったことが、苦労が多かった点もあるが、色々な人にから助けて頂いて、実現に至った過程がわかります。逆に今でも思うのが、新設校であったために、なにも無い紙の上で色々な企画をぶつけることができたのかもしれません。

今後のこような１人の民間人（保護者）がこのような企画することが無理であると思われるが、「実際やればできる」「周りを巻き込む」からスタートすると良い結果に結び付くというヒントではないでしょうか。

各委員の皆さんからすると、今回の避難キャンプは、初歩的な一歩かもしれないけれど、「来年度をやると」発言された校長先生から頂くことで学校側も一定の評価が得られたものと感じました。

（公に掲載する場合、下記文章は削除してください。）

裏場面での苦労といえば、保護者からの、キャンプを行うとでのリスク（怪我発生）を指定を受けることで、ゲームメニューが簡素化されました。例えば転倒リスクなどがあるから、タイム競技を外したりしましたが、このように訓練には、得られる物があれば、それに伴うリスクもつきまとうものです。その点を理解して頂くことが、まだ足りないのだと感じました。あまり、中途半端だと面白くない不安もありましたが、結果からするビギナーにはそれでよかったと感じました。

次に、多方面で協力をお願いするなかで、市内の防災士会（民間資格）に打診をして、地区の担当者に意見を具申をしたのですが、きついお言葉で、「これは、防災訓練ではない、子どものお遊び」「すること自体が無理だと」文章で頂くことになりました。その方に言わせれば、日常市町村が単位で行っている、防災訓練メニューをやったほうがいいとのことで助言を頂きました。消防や、赤十字派遣をして頂いて、普通に行うとのことでした。ＡＥＤとかのメニューがいいと言われましたが、子どもたちにはまだそのレベルに達していないし、応急処置ゲームに関しては、実施する前に、一時間程度の講習後にやるべきと言われましたが、今回の参加者のニーズはまだ初歩の入り口でやってみたい世代（３０～５０歳代）であること。（アンケートからも、あまり防災訓練に興味が無い人が多い）から、あえて、難しい取り組みをせず、簡易に、子どもと一緒に楽しくやれる要素にしました。（ご批判は、当然だと思ったのですが）

（ここまで）

次のキャンプに向けて、最初の防災教育という入口は入ったと思っています。進化させるのには、どうしたらいいかに今後の課題がうつっています。釜石での防災教育での事例を参考に

（自由記述：２／３）

しつつ、来年度の企画を練り上げていいこうかと思っています。

子どもたちが、考える、悩み、解決する力を養いつつ、保護者が参加することで、その場面にスパイスをかけていただいて、更に美味しい企画にしていきたいと思っています。

防災教育という主対的な企画に対しては、側面的要素は、学校が地域との関係を強化するとともに、保護者との身近な交流をできてきたのが感じられました。教職員・子ども・保護者が一緒に泊まるなんてまず、どの学校も行ったことがなかったと思っています。（八千代市では）それらが、この新設校の宝になっていくことでしょう。

さて、このキャンプ後の成果としては、色々な人と知り合ったことでの、３．１１時での被害について、知りることができたために、防災ｅマップに反映して記憶を残していきたいと感じ、すぐに作成することとしました。すぐと言っても私も仕事を抱えている身ですので、そう簡単には進みませんでした。

また、私の学校支援委員会という組織ですが、役所組織に属しているわけでなく、１人所帯組織なのも幸いにしてか、あまり学校でも重視される存在でもありませんでした。そのためか、関係部署から「もしものときどうする？」について悩み、葛藤した意見が聞かれました。

私は、阪神事例からもあるように、避難所組織を立ち上げるのに、学校側の苦労（3.11 の避難所となった学校は、教職員が奔走していた）を知っていましたから、学校の協力無くては、初期の避難所として運営は難しいように感じています。ただ、教育委員会からすると、学校の専門家であって、避難所としての専門家ではないので、避難所運営委員会の長たる者になれない方針でした。自治会の長がなるような形をとっているようだが、初期段階では、臨機応変、また、人として、学校長が動いていただけることを信じたいと思っています。

結局、私が今回この企画をした最初の趣旨では、避難所の校長先生の苦労話（流れないトイレ掃除や苦情受付）を聞いて、学校だけじゃない、地域全体で対策をしないといけないという考えから企画したのですから、これからも避難所運営については、勉強をしていきたいと思います。

今後、防災教育チャレンジプランを進めることが、日本全体の人達を守る、安心・安全に繋がっていくことを期待しています。

（自由記述：３／３）